

会の目的

独立・非同盟・平和・民主主義をめざす日本国民の団結を基礎に、民族自決・民主主義・社会進歩のためにたたかうアジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国民との連帯を強め、帝国主義、新旧植民地主義に反対し、民族解放と世界平和に寄与することを目的とする。

アジア・アフリカ ラテンアメリカ

日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会機関紙

2006年5月1日

No.552

訪日ベネズエラ代表团帰国

日本のたたかいに勇気と展望をありがとう



4月10日、全国18都市での歓迎連帯行事の最後を飾る東京集会（豊島公会堂）のフィナーレで、500人の参加者を前に『平原の魂』を熱唱するフェリーペ・フィゲロアさん(左)とジョニ・ニーニョさん(右)

ご協力いただいたみなさん ありがとうございました！

日本AALAがベネズエラ国際連帯委員会の訪日代表団を招き、3月13日から1ヵ月にわたって全国でくりひろげてきた歓迎連帯行事は、のべ38都道府県から5500人の参加者をえて、無事に終了することができました。

代表の2人、フェリーペ・フィゲロアさんとジョニ・ニーニョさんも、1ヵ月間のハードスケジュールをもとせせず、各地で贈られたおみやげの山と、たくさんの思いをたずさえて帰国の途につきました。

ここであらためて、この一連の行事を成功させるため、物心両面でご協力いただいたみなさん、ま

た集会に足をお運びいただいたみなさんに、心から厚く御礼申し上げます。このとりくみは間違いなく、日本中のたたかいに勇気と展望を広げる一歩となりました。

今号では5ページのベネズエラ歓迎連帯行事特集をくみました。巻末にアドレスを掲載したホームページとあわせ、そのようすをご報告させていただきます。



ドキュメント

今年の選挙で国会議員は全員が革命派に！ ベネズエラの熱い風が

3月14日に来日したベネズエラ国際連帯委員会(COSI)のフェリーペ・フィゲロアさんとジョニ・ニーニョさん(いずれもCOSIの全国指導部員)は、まず都内で活動。3月19日に羽田を飛び立ち、日本列島を縦断する旅を開始しました(前号で詳報)。

日本列島縦断の旅へ

各地の集会は予想を超える参加をえることができました。

- 3月20日、沖縄 150人。
- 3月21日、高知 150人(その後の「大交流会」は200人)。
- 3月22日、福岡 280人。
- 3月23日、岡山 220人。
- 3月24日、兵庫 350人。
- 3月25日、大阪 350人。
- 3月27日、富山 100人。
- 3月28日、愛知 130人。
- 3月29日、長野 150人。
- 3月30日、群馬 200人。
- 3月31日、千葉 230人。
- 4月1日、三多摩 290人。



- 4月3日、神奈川 150人。
- 4月4日、埼玉 250人。
- 4月5日、山形 210人。
- 4月6日、宮城 300人。
- 4月8日、北海道 300人。
- 4月10日、東京 500人。

5500人が歓声・拍手

これらの集会や、懇親会などの関連行事には、あわせて5500人が参加。2人の報告(概要をホームページに掲載)が感動をよびました。とくに「今年の総選挙の結果、国会はチャベス大統領がすすめる革命を支持する勢力が全議席を占めた」、「全国に22ある自治体のうち21の知事がチャベス派」、「今年、チャベス大統領が提唱して、女性の家事を生産的労働とみなし、最低賃金の8割を支給する法律ができた」などが語られると「おぉー」とどよめきがおこり、大きな拍手が送られました。

広島悲劇 伝えたい

代表は3月23日、広島にも立ち寄って、県被団協や県原水協の方の案内で原爆資料館などを視察。ジョニさんは「われわれは広島が苦しんだ悲劇とたたかう義務がある。二度と核兵器を使わない世界



をつくるため、広島悲劇と苦しみをベネズエラで伝えたい」と語りました。

米軍基地の実態に怒り

神戸では「非核神戸方式」で米軍艦船の入港を阻止してきた運動の話聞き、神戸港を船で一周。神奈川では専門家の案内で、米第7艦隊旗艦や空母キティーホークを海上から視察、「米軍再編」問題や基地被害の実態にふれました。沖縄、神戸、神奈川でフィールドワークを行ない米軍基地問題にふれたフェリーペさんは「ともに米軍の支配とたたかっている」と述べ、また憲法9条を守るために連帯を表明しました。

県知事を表敬訪問

埼玉と山形では県知事を表敬訪問。山形ではイシカワ・セイコウ駐日ベネズエラ大使も同席して、地元の新聞やテレビでも報道されました。





女性の家事を生産的労働とみとめて国が手当を支給！ 日本を吹きぬけた30日間

青年が歴史をひらく前衛に

神奈川と北海道では、青年たちとも交流。政府・財界が進めてきた新自由主義の経済のもと、高学費・高失業率に苦しむ青年の実態にふれて、フェリーベさんは「歴史はいつも青年がきり拓いてきた。どんな運動にも前衛が必要。みなさんが改革の先頭に」と青年たちを激励しました。

生まれてはじめて雪合戦

代表団は京都で府知事選挙(4月8日投票)事務所を訪問、横浜では市長選挙(3月26日投票)で惜敗した直後の関係者を「たたかいいには勝ちもあれば負けもある。私たちもそうだった。つぶされたら、また、たたかいを起こせばいい。最後は必ず勝利する」と激励。

山形では、雪のつもった山道を車で移動中に下車して「生まれてはじめて」雪合戦する一幕も。

8000kmの旅を終えて

4月11・12日には、全教や全労連との懇談、日本AALA三役と総括の懇談会を行ない、約8000kmにおよんだ旅程を終えて、2人は成田を飛び立ちました。



参加者からよせられた感動の 声・声・声

資本主義のなかでの生きた運動をワクワクする思いで聞いた。私たちも1日も早く続けたい。ダイナミックな政治変革に胸が躍った。日本にも必ずこんな時代が来る！歴史はすすむ、社会は必ず変わる、夢を持ち続け、行動し続ける勇気とはげましをもらった。ガンバリマス！仕事のことで元気がなくなっていたが、ベネズエラの連帯にもとづく創造的エネルギーに触れて元気が出た。国民には、自分も参加し政治を変える力があることに確信をもつことができた。日々の活動が空しくなることもあったが、コツコツ続けたら、国民の力で、国民のための日本に変えられるかもしれないと希望をもらった。天然資源、環境、社会保障をもうけの対象としないという話に希望を持った。多数者革命が、ベネズエラで実践されている！多くの国民が草の根で自覚的に社会をよくする活動に参加している話が印象的だった。新しい社会主義をめざす国の代

表たち。その力強い希望に満ちたメッセージは、過去のソ連型社会主義にがっかりした私たちを励ましてくれた。日本でも憲法を守る政府ができれば、ベネズエラに負けない政治ができきる。ベネズエラの仲間の元気をもらい、世界は大きく変化していることが、よくわかった。ありがとう。政治を国民が主人公に変えるだけで、これだけの変化がつけられることにビックリ。日本で同じように政治をあらためれば、どれだけのことができるだろうと、思わずためいきが出た。人間らしい生き方を大切に活動は必ず実をつけると確信。人びとの力が社会を変える！21世紀の新しい流れの息吹を感じて「明日もがんばろう」と元気をもらった。民青や平和ゼミナールの高校生300人で3.21の大きなデモをしたり、何カ国もの大使館にピースメッセージをもって訪問したりしてきました。私たちもできることから peace をひろげていきます



いっそう強まった連帯のきずな 帰国を前にした代表2人のメッセージ

私たちにも貴重な経験

フェリーペ・フィゲロアさん
今回の訪問は私たちにとても非常に貴重な経験となりました。みなさんが平和と国際連帯のために、いろいろなかたちでたたかっていることがわかり、交流に参加された一人ひとりに言葉がないほど感謝しています。

日本AALAと交流して、地方で準備を進めてくれた方々など、



どのようにしてこのような組織的な力を持つことができるのか、その活動を学びましたし、はげみを与えてくれました。

また日本国民のすばらしい兄弟的な連帯の気持ちを各地で感じました。みなさんに親切や協力をいただき、こうしたことが将来の両国民の発展に必ず役立つようになります。

今回、多くの経験を学び、持って帰りますが、私たちもベネズエラ国際連帯委員会の組織を強化して、両国民の友好をいっそう発展させていきます。

改革を語り元気ひろげる

ジョニ・ニーニョさん
さまざまな交流に心から感謝します。交流に参加した人びとは日本全体の人口からすれば大



きな数字ではないかもしれませんが、その一人ひとりがさまざまな組織を代表し、つながりをもっているのですから、たいへんな数の人びとが連帯の絆につながるようになったと思います。

連帯行事は、それぞれの組織に勇気を与えました。運動を進める人びとにとって、さまざまな局面があり、目の前に成果があがらず元気を失うときもあります。そういう時、私たちの経験が少しでもみなさんに勇気を与え、元気をくみとってもらえたとしたら、これ以上の喜びはありません。

私たちもチャベス政権以前は、同じように意気消沈する時がありました。しかしいま、元気をもって私たちの改革を人びとに語っています。その話を聞いた人たちが元気になって活動をはじめ、それが二重にも三重にも広がっていきます。いま私たちは将来の大きな可能性を展望しており、それに向かってより多くの人びとが参加する状況が生まれています。

私たちがそれぞれ元気で課題に着実にとりくみ、反動勢力とたたかうならば、必ず勝利します。

私はこの時期に両国民の連帯がたいへん重要だと思っています。良い時期にも悪い時期にもお互いが協力し合い、お互いに連帯を深め、国民の願いを実現するためのたたかいを続けましょう。



共産党への差別なくなり校長までつとめた ジョニさんから日本の青年に——

失敗恐れず あきらめず がんばろう

教職員組合の全国指導部にいた4年間以外は、ずっと現場で数学と物理の教師を続けてきたというジョニさん。高校生だった16歳のとき共産党に入党して以来、公然と活動してきました。「チャベス政権以前は政治的な差別があって共産党員が校長になるなんて無理だった。共産党員だということを隠せば管理職につけたかもしれないが、私は隠さなかった」と語るジョニさんも、チャベス政権下の2002年、学校長に就任して教育改革を推進しました。日本AALAも代表を送った昨年夏の世界青年学生祭典(ベネズエラで開催)で日本代表団が懇談したベネズエラ共産青年同盟国際局長ファン・カルロス・ニーニョさんの叔父でもあるジョニさんから、帰国直前、「日本で出会った青年たちにぜひ伝えてほしい」と、次のメッセージを託されました。

機械化が進んで雇用機会が減るだけでなく不安定雇用も広がり、とりわけ若い世代に新自由主義が適用されている。資本の魂は、できるだけ搾取して利潤をあげることにあるから、資本は規制されなければ、シンガポールに行ったり中国に行ったり、いちばん利潤が実現される場所に移っていく。資本に国土や国民を愛する気持ちはまったくない。雇用減少・不安定雇用・空洞化の話をしたが、その一番の被害者である青年たちは、ほかの世代よりもっと資本主義とたたかわなければならない。その意味で青年たちのたたかいは、新自由主義を克服した将来の日本をつくるたたかいだ。さまざまな困難があっても失敗を恐れず、あきらめないうで、ねばり強く活動することがなによりも大切。私たちも青年と共同して、たたかいを進めたい。一緒にがんばろう！